

保育ヒアリングシート_サービスの実施

(書類を提示してもらうなど具体例に確認すること)

6_4_1

① 発達の状況に応じた保育

- 入園前の子どもの様子は保護者との面談や調査票によって把握している。
- 入園後は、連絡帳や保護者との会話によって家庭での生活の様子を把握している。
- 子供の発達過程は保育日誌や児童票（発達経過記録）に記録して把握し、指導計画に反映させることにしている。
- 各保育室の室内環境は、子どもの年齢、発達状況、興味、関心を考慮し、コーナー設定や遊具、玩具を配置している。
- 子どもが安心して伸び伸びと遊べるように自ら好きな遊具、玩具を選んで遊べる環境になっている。
- 朝夕の時間帯、散歩、各種の行事など、異年齢の子どもと一緒に過ごし、生活、遊びの中で見て学んだり、教えてもらったりなどの機会を設けている。
- 特別な配慮を必要とする子どもの支援のため、専門職の巡回指導やいつでも相談できる関係機関と連携している。
- 職員の加配などによって友だちとの関わりを円滑にし、個性を発揮して成長していけるようにしている。
- 子ども同士のトラブルについては、年齢特有の発達過程で現れる現象であることを、入園面接や保護者会において伝え、理解を促している。
- 子ども同士のトラブルが実際に発生した際には、一緒に考えたり、助言したりしながら相手の気持ちに寄り添えるようにかかることにしている。
- 円滑な就学を目指して、地域の幼保小連絡会に参画して情報収集したり、近隣の小学校見学会、体験入学など、様々な機会を設けている。

6_4_2

① 生活のリズムに配慮した保育

- 登園時には保護者に子どもの様子を聞いたり、連絡帳の内容を聞き取ったり、視診接診を行い受け入れることにしている。
- 保護者からの連絡事項は、申し送り表などの書式によってクラス担任に伝達するなど、職員間で共有することになっている。
- 年初のクラス懇談会などの場において年間目標を伝える中で、基本的な生活習慣の大切さを伝え、具体的な取り組みなどを示唆することになっている。
- 各種の媒体（園だより、クラスだより、保険だより、給食だより）などを通じて基本的な生活習慣や健康習慣の大切さを伝えることにしている。
- 降園時には、保育記録によって園での様子を伝えるとともに、口頭によっても伝え、保護者に理解と安心を与えるようにしている。
- 幼児クラスや登園時間の早い子どもには午前睡をするなど対応したり、午睡から早く目覚めた子どもには静かに過ごせるようにしたりなど配慮している。
- 睡眠時間には個人差があることを前提として取り組んでいる。
- 5歳児は就学を控え、保護者と相談しながら午睡の時間帯や有無などを取り決めている。

6_4_3

① 日常の保育

- 子どもが主体的に活動できるように各保育室は年齢に合わせたコ__ナ__を設定し、子ども一人ひとりが遊び込める環境作りに配慮している。
- 子どもの発見や探求心を把握して、保育のねらいや配慮、環境設定を計画している。
- 絵本や様々な表現活動を通じて子ども同士や保育士との会話から、言葉の豊和を感じ、想像力を育てるようにするなど、日常の会話を大切にすることになっている。

- 外部講師を招聘したり、共同制作を取り入れたりして、子どもが様々な表現を楽しめるようにしている。
- 近隣公園への散策、植物栽培など、季節ごとに、ねらいを持った戸外活動を取り入れている。
- 生き物を育てるなどの機会も設けている。
- 登板活動と咲いて、給食の配膳、クラスのごみ集め、みんなの前での挨拶、発表などを取り入れている。

6_4_4

① 行事などの取り組み

- 日常の保育において子どもの興味関心を把握し、主体的に行事に関われるように計画している。
- 夏祭り、運動会、お楽しみ会、作品展、お店屋さんごっこなど、年間を通じて行事を開催している。
- 保護者が参加（見学）できる行事も開催し、成長をもてもらい、ともに喜び合えることを大切にしている。
- 七夕、節分、ひな祭りなど、伝統的な行事も開始して、由来を伝えたり、食事や制作物などのも取り組んだりして伝承できるようにしている。
- 行事の開催日は年初に保護者に伝え、保護者参加行事についてもわかりやすく伝えることにしている。
- 健康診断、身体測定、外部機関の相談日などもわかり易く伝えることにしている。
- 行事の準備に取り組んでいる様子は保育日誌や連絡帳で伝え、開催後にはアンケートを実施して、意向や要望を把握して次年度につなげている。

6_4_5

① 保育時間の長い子どもへの対応

- 延長保育は異年齢の合同保育としており、子どもが落ち着いて好きな遊びに集中できる
- ように、必要に応じてご同保育時間の保育室、時間帯を変更するなど配慮している。
- 補食をはじめ夕食も提供しており、事前に保護者に確認することで提要できるようにしている。
- クラス担任以外でも適切に保育できるように、日常の保育のかなでも交流を図ることにしている。
- 延長保育専用の遊具や玩具を用意しており、子どもが殿玩具で遊んでいたかななどを把握して適切に提供できるようにしている。
- 日頃より異年齢保育に取り組んでおり、自然に年長の子どもが年下の子どもと楽しく遊べるようにしている。

6_4_6

① 食事提供（給食）

- テ__ブルの配置や座る場所などは、子どもの状況に応じて取り決め、落ち着いて喫食できるようにしている。
- 保育士も一緒に喫食し、食前食後の挨拶、箸やスプ__ンの使い方、基本的なマナ__などを伝え、楽しき食事ができるようにしている。
- 子どもの施行や喫食状況を把握して2週間単位のサイクルメニュー__としており、栄養士は喫食週にラウンドして把握している。
- 離乳食は家庭での喫食状況を把握して、個々の発達に応じて提供することにしている。植物アレルギー__については医師の診断書をもとに保護者と面談を行い除去食で対応することにしている。
- 誤飲、誤食防止のため、食器を工夫したり、喫食時のテ__ブルを分けたりして注意する流れとしている。
- 年間食育計画を作成し、年齢に応じて食育、クッキング、栽培活動などに参加できるようにしている。
- 給食日よりでは保護者に人気献立レシピなどを伝え連携を図っている。

6_4_7

① 健康管理

- 「年間保険計画」を作成し、手洗い、うがいの指導、風の予防、目や耳目の話などを通じて健康に過ごせるように留意している。
- 保険だよりをはじめ、各種の園内掲示によって子供をはじめ保護者への注意喚起を促している。
- 事故節対策として、各園（各クラス）において遊具や家具の安全対策に取り組んでいる。
- 年齢ごとに（0歳は月1回、1歳児からは年2回など）園医による健康管理や歯科検診に取り組んでいる。
- 身長や退場は毎月測定して保護者に伝え、必要に応じて相談に乗れるようにしている。